

授業を行うにあたって工夫していること

ある医学部学生に対して、麻酔科に関してアンケート調査を行った結果がある。「麻酔科に興味があるか？」という質問に対して、入学時の学生は全員が興味なしと返答したが、授業を終えた4年時では35%が興味があると答え、臨床実習を終えるとそれが80%以上になるという。それだけ、麻酔科学は医学生を含め、一般の方には馴染みがない学問である。従って、麻酔科学に触れる授業ならびに実習は医学生にとってインパクトのあるものでなければならず、またその機会を逃してはならない。授業や講演の成功を決める50%は内容であり、残りの50%は熱意といわれる。熱意はもちろんであるが、内容で工夫する点として、分かりづらい麻酔科学を具体的に動画等をふんだんに取り入れて、学生の興味をそそるようにしている。また、ある有名な演説家の言葉に、「講演の成功は、①時間内に終わる、②声がよく聞こえる、そして③部屋が快適である、で決まる。」というものがある。私も最低限これだけは守っているが、授業の善し悪しなど案外そんなものかもしれない。

学生への要望・アドバイス等

麻酔科学は非常に興味深い学問です。外科侵襲から患者さんをお守りするために、私たちは鎮静薬・鎮痛薬・筋弛緩薬などを使用します。それらの薬剤は、呼吸を停止させ、循環を抑制しますが、患者さんの生体機能を維持するために、私たちはあらゆることを手術中に行っています。また、手術が終われば、何事もなかったかのように患者さんを速やかに覚醒させる必要があります。これらの医療行為・技術は集中治療や救急医療、さらにペインクリニックや緩和医療に活かされています。是非、その学問に触れてみてください。

最後にひと言。授業中に寝るのは君たちのせいではありません。それだけ授業が面白くないからです。